



野原 恵子
議員
(日本共産党
幕別町議員団)

問 (1) 昨年12月、食物アレルギーで給食後に5年生の児童が死亡する痛ましい事故が東京であった。学校でこのような事故を未然に防ぐためにも、対策を講じていくことが必要である。また、これまでもアレルギー給食の実施を議会で求めてきたが具体的な前進がみられない。

(2) 2005年には、国民の健康と豊かな人間形成などを目標に、食育基本法が制定され、本格的に食育指導が始まった。同時に児童の栄養指導および管理を職務とする栄養教諭制度が実施され8年になる。給食を通して子どもを育てる視点からも栄養教諭の配置が求められる。

(3) 地場産食材の活用促進・既成の加工品の使用を抑えるなど食の安全・安心からも、学校ごとに給食を調理する「自校方式」に切り替えていくことは、スローフードにも通じ人間性豊かな食教育の推進にもなる。

| 問 | 答 |
|------------------------------|------------------------------|
| アレルギー給食の実施・栄養教諭の配置など学校給食の改善を | アレルギー症状の発症の予防に努めながら、検討していきたい |

教育長 (1) 現在、5人の児童生徒に対し、牛乳の代替として豆乳を提供している。

また、学校に対して、事前に給食の食材内容を通知し、これをもとに学校では対象児童生徒がアレルギーを含む食材を食べることのないよう対応している。

このようなことから、全く給食を食べられない場合には、弁当を持参していただいております。現在5人の児童が対象となっており、アレルギーへの対応策として、代替食や除去食を提供することについては、独立した調理場の設置や専用の調理器具等の調達、専任の調理員の確保など課題も多く、現在の給食センターの施設形態では対応が難しい状況である。

このようなことから、今後も保護者、学校との連携を図る中で、アレルギー症状の発症の予防に努めることを基本としながら、先進事例の調査・研究も進めていきたい。

(2) 平成25年度から新たに、忠類給食センターの栄養職員を栄養教諭として任用がえを行い、当面、忠類小・中学校を初め、南幕別地区の近隣校にも出向き、「食に関する指導の全体計画づくりや進行管理」はもとより、食育にかかわる指導の一部も担当していくことを目指し、食育の一層の推進に努める。

なお、幕別地域の小中学校への栄養教諭の配置については、これまで栄養教諭を含めた配置基準の見直しを要望しているところであるが、定数増は難しい状況にあることから、忠類地域における栄養教諭の勤務上などの問題を検証する中で、幕別地域における体制のあり方について、今後、検討していきたい。

(3) 現在の幕別学校給食センターは、平成10年4月に竣工したものであるが、当時、給食センターの建設にあたっては、学校給食の実施に必要な施設・設備に要する経費と職員の人件費など、センター

方式及び自校方式それぞれのメリット、デメリットを考慮した上で、財政面や運営面も総合的に判断し、センター方式を採用したものであると認識している。

現在の給食センターは建設から15年しか経過しておらず、当面は、良好なる維持管理に努めていきたいと考えている。

なお、将来的に建て替えの時期が来た際には、学校給食の適切な運営方式について、関係する方々とも相談していく中で検討していきたい。



途別小学校の給食風景